

第2回衛生管理技術講習会(関西エリア)報告

異物混入をなくしていこう!

Radixの会食品部会では会員の食品メーカーさんへのサポートとして衛生管理技術講習会を開催しています。今回はその第2回目。7月27日、関西エリアのメーカーさんを対象に、大阪市内で開催。加工、水産、畜産関連34社50名が参加しました。

Report

■みんなで行なう衛生管理

まずは事例報告。埼玉県で豆腐製造を行なう、株式会社手造り屋・八幡博夫次長からのお話です。

「手造りは人手に頼ることが多く、器具も特殊なものを使う。それらの衛生管理や、ざる豆腐の製造工程での菌問題の解決方法を模索していたところ、大野先生(※1)を紹介していただきました」。

衛生管理の基本は、見た目から。製造に必要なものを工場内に置かない、置かせないこと。「見た目の段階で、なかなかモノがなくなる。衛生管理は責任者クラスが指示してやるのではなく、現場の全員が意識をして各々実践していくことが大事なのだと実感しました」と話します。

薬剤をなるべく使わずに減らしていく虫対策も、「最初は半信半疑でしたが、結果はあきらかに害虫業者に委託していた頃より減りました」。虫の特性を知り、住みかになりうるモノを無くしていくことの重要性を知ったそうです。

大野先生のご指導で、この2年間で社員の意識に高まりが。「衛生管理は、現場にミスを指摘するだけではなく、なぜそうなったのかを共に考える姿勢が大切。大野先生の“マニュアルは現場から”を念頭に、全社一丸となって取り組みたい」と結んでくださいました。



株式会社手造り屋八幡博夫営業部業務課次長

■異物混入対策をしっかりと 品質クレームの傾向と対策

次に、らでいっしゅぼーや品質保証課村田靖雄課長と大野先生による、品質クレームの傾向と対策を講習。今年のクレームの傾向としては、昨年7月の雪印事件を発端とした一連の騒動の影響もあって、異物混入が増えています。品質クレーム全体の15%を占め、昨年対比で170%の増加です。(図1)異物混入の内訳は多い順に、毛髪、工場内のゴミ(不要物)、虫 となっています。(図2)

図1 クレームの割合

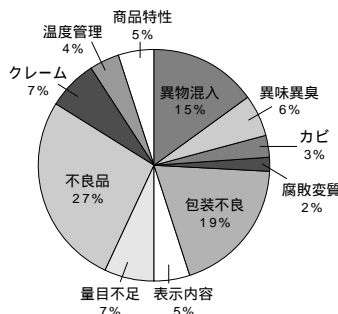
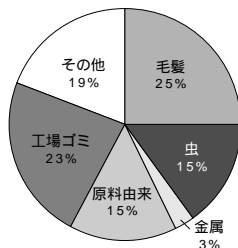


図2 異物の種類



■毛髪の混入対策

毛髪混入の対策は、①正しいユニフォームを着用する ②入室時にローラーがけを行う ③作業中にも定期的なローラーがけを行う ④部外者の立ち入り時のユニフォーム着用徹底 ⑤静電気防止対策(人間、コンテナ等)があります。

①～③は当然のこととして、④については、事務所の人や配送業者などが、ユニフォームを着用しないで製造所内に入室してしまうケースもあるので、

最低でも着帽を徹底します。⑤については、静電気が毛髪を呼ぶので、資材や人間から静電気を除去するようなもの(車につけている静電気を取るもの)みたいなもので、資材や人間が触る事で、静電気が除去できる)もあり、効果が期待できます。

■虫の混入対策

防虫対策は、①外部との遮断による飛来虫の防止 ②サニテーションによる内部発生防止 ③原料由来の混入防止策の3つです。

対策のポイントは、防虫業者に任せきりにしないで、自分たちで取り組むことです。そして自分たちで虫の特徴を捉えて対応することです。

例えばゴキブリ。本来ゴキブリの生息地は、熱帯の森林で、地面の葉の下に潜って生活をおくっている訳ですから、彼らにとっては数ミリの隙間が快適な空間。ですから、隙間が生活の場となっているのです。対策としては、製造所内の隙間を埋めてしまうこと。住み家が無くなれば、いなくなるものです。

また、虫は紫外線に向かって集まります。この習性を利用しているのが、黄色いのれんを使用すること。虫の習性を利用した防虫方法のひとつです。黄色は紫外線を通さないで、工場内に虫を呼びにくくするのです。

これらのように、まず虫の特徴を知った上で、対策を取ることが肝心です。

■製造所内の異物

製造所内にあるものは、嘘のようなものも製品に混入することがありますので、工場内から必要のないものをなくすことが対策となります。

●剥れたカベや床の塗装片→剥れない塗装にする。清掃時に除去する。

(※1) 大野隆司さん ICF技術総合研究所(らでいっしゅぼーや様品質保証課顧問)